

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

オオアワダチソウ

(*Solidago gigantea*. Aiton subsp. *serotina* (Kuntze) McNeill)

宮崎直美 (帯広畜産大学/帯広の森・はぐくーむ)
xypmx259@yahoo.co.jp



オオアワダチソウは、北アメリカ原産の多年生草本である^{8,11)}。主に道端、荒地、原野、河川敷に発生し、高さは1.2 mほどで、夏には茎の上部に黄色い舌状花と筒状花からなる頭花が円錐状につく^{1,8,11)}。頭花は虫媒花で、開花期には多数の虫の訪花が見られる¹⁾ (写真-1)。多数の頭花が密につくため¹¹⁾、夏の河川敷などでオオアワダチソウが一面に咲くと、黄色い絨毯が広がっているように見えるほどである。

もともと、オオアワダチソウは明治時代中期に観賞用として国内に導入された⁸⁾。観賞用に植えられていたものが逸出して野生化^{8,12,13)}、各地に急激に分布を広げ始めたのは第二次世界大戦以後¹⁾と考えられる。現在、北海道~九州まで分布が見られ^{8,9)}、本州ではそれほど目立たないが、北海道では近縁種セイタカアワダチソウよりも多く見られる^{1,8,9,12)}。北海道では1960年以降、札幌を中心に鉄道に沿って釧路、網走まで広がり¹⁾、現在は全道で普通に見られている¹⁰⁾。

オオアワダチソウの優れた繁殖方法は、種子だけでなく地下茎の両方で増える繁殖様式をもつことである¹⁾。開花後に果実が成熟すると、白い綿のような状態となり (写真-2)、冠毛をもった瘦果 (写真-2) は風散布される。成熟した果実は、子供達に『綿あめのようにふわふわ』と表現される。オオアワダチソウ1個体から数千の種子が飛び、5 m×5 m 枠内で80~100本の密度の集団になると数千万もの種子が飛散する¹⁾ため、このような旺盛な種子散布が分布拡大につながっていると考えられる。もうひとつの優れた繁殖様式は、地下部に有する地下茎である。地下に長く横走る地下茎か

ら密に茎を直立させ、栄養繁殖をおこなう^{6,8,11)} (写真-3)。後述するオオアワダチソウの引き抜き作業の事例では、長さ1 m以上に達するほどのオオアワダチソウの地下茎も観察されている (写真-4)。この長い地下茎によって栄養繁殖し、群生する¹¹⁾ことから、オオアワダチソウは種子繁殖とあわせて旺盛に生育地を広げられると考えられる。

オオアワダチソウが旺盛な繁殖力で繁茂することで、草原や樹林地では在来植物への被圧がみられる³⁾。生態系等への甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高いとされ、環境省によって重点対策外来種に区分されている⁵⁾ほか、北海道では防除対策の必要性について検討する外来種A2²⁾、日本生態学会の侵略的外来種ワースト100にも選ばれている⁷⁾。現在、オオアワダチソウの利用に関する情報は得られていないが⁴⁾、生態系への影響が大きいことから、生物多様性に配慮した緑の再生、創出、保護、管理などにあたっては、計画段階から取り扱いに十分注意が必要である。

北海道では、知床国立公園、苫小牧市ウトナイ湖、礼文島などで駆除活動がおこなわれている⁴⁾。帯広市の都市公園「帯広の森」でも駆除活動を実施しており、小学生の環境学習などでオオアワダチソウを根ごと引き抜く作業を、毎年夏に実施している (写真-5)。定点区域でオオアワダチソウの引き抜きをおこなうと、翌年には茎数が大きく減少し、引き抜きを継続すると、茎数が少ないまま維持される傾向が見られている。ただし、茎数が減少しても、地下茎の先からは新たなオオアワダチソウが出て、栄養繁殖していることも確認されている。このようなオオアワダチソウの旺盛な繁殖力に対して、再び繁茂することが予想されるため、引き抜きなどの駆除活動を、継続的に繰り返し実施していく必要がある。長期的な対策にあたっては、先述した小学生の環境学習など市民参加と連携した取り組みをおこなっていくことが考えられる (「帯広の森」の駆除活動の効果は検証中)。

引用文献

- 1) 福田一郎 (1982) 帰化植物セイタカアワダチソウおよびその近縁種の分布構造, Science reports of Tokyo Woman's Christian University 32 (3): 675-690.
- 2) 北海道. (更新: 2010年7月12日). "北海道ブルーリスト 2010 概要版". 北海道ホームページ. <http://bluelist.pref.hokkaido.lg.jp/uploadfiles/hokkaido-bluelist2010.pdf> (参照: 2022年12月24日)



写真-1 虫が訪花する頭花

- 3) 北海道新聞野生生物基金 (2014) ウトナイ湖での市民参加によるオオアワダチソウの抑制管理, モーリー: 北海道ネイチャーマガジン 37: 26-29.
- 4) 環境省. (更新: 2022年6月14日). “我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種の付加情報 (根拠情報) —植物”. 環境省ホームページ. https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/fuka_plant.pdf (参照: 2022年12月24日)
- 5) 環境省・農林水産省. (更新: 2022年6月14日). “我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リストパンフレット”. 環境省ホームページ. https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/files/gairai_panf_a4.pdf (参照: 2022年12月24日)
- 6) 桑原義晴 (1975) 休耕水田の荒廃度表示の一方法, 雑草研究 19: 25-29.
- 7) 日本生態学会編 (2002) 外来種ハンドブック, 地人書館, 390 pp.
- 8) 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七編・著 (2001) 日本帰化植物写真図鑑, 全国農村教育協会, p. 389.
- 9) 清水建美編 (2003) 日本の帰化植物, 平凡社, p. 217.
- 10) 滝田謙譲 (2001) 北海道植物図譜, 自費出版, p. 1017.
- 11) 梅沢 俊 (2012) 新北海道の花, 北海道大学出版会, p. 31.
- 12) 鷺谷いづみ (2002) 身近な外来生物, 現代用語の基礎知識 2002年版, 自由国民社, pp. 490-491.
- 13) 山岡文彦 (1988) 帰化植物 もっとも身近な帰化植物 100種の渡来, 形態, 生産地, 分布, ニューサイエンス社, p. 29.



写真-2 成熟した果実と冠毛をもつ瘦果



写真-3 地下茎から栄養繁殖するようす



写真-4 長い地下茎



写真-5 「帯広の森」での駆除活動のようす